

# 言葉の力を育む授業を目指して

## 3年生 国語

### 1 テーマ設定の理由

二瓶弘行（筑波大学附属小学校）は、『基幹学力の授業2007第7号 明治図書』で、国語の授業で育てるのは、「言葉の力」である。読む力、書く力、話し聞く力、言葉に関わる知識・技能、そのすべては、あらゆる学びの根幹となる基幹学力。まさに、生きる力そのものであると述べている。

子どもたちが学習を主体的に受け止めるために、いかなる導入と終末を意図的に仕組むかが重要である。言葉の力を育むためには、1時間ごとにどのような言葉の力をつけるのかを明確にしておくことが大切である。そこで、1時間の授業をどのように構成したら言葉の力を育むために効果的であるかを探っていく。

### 2 テーマ達成に向けての取組

次の3点について取り組むこととする。

- ・1時間授業の中心として、どんな「言葉の力」をつけるのかを明確にする。
- ・子どもたちを学習に引き込むために導入を工夫する。
- ・1時間授業で育みたい「言葉の力」を、子どもたちが意識する終末となるよう工夫する。

### 3 実践の概要【対象：3年2組 男子17名 女子14名 計31名】

(1) 単元名 言葉で遊ぼう

(2) 単元の目標 「言葉遊び」を通して、言語感覚を高める。

(3) 指導計画（全3時間）

○かくし言葉（1時間）

- ・「わたしはだれでしょう」クイズを作ろう

○言い方を考えて（2時間）

- ・三つの詩を音読しよう
- ・音読を工夫しよう（グループごとに）

(4) 単元について

この単元は、『かくし言葉』『言い方を考えて』で下記のような活動を行う。

1つ目の『かくし言葉』の学習では、「かくし言葉」の意味に子どもたちは興味をもつと考える。名詞の1文字1文字を接頭語として使い、「わたしはだれでしょう」クイズとして出題する活動を通して、言葉に対する興味関心を高めることができる。また、名詞を説明する文がヒントとなることから、すぐ答えが分かるような文にならないように工夫しようとするに違いない。

2つ目の『言い方を考えて』の学習では、特徴のある3編の詩の音読を楽しむ。

『また』の詩では、掛け合いのおもしろさを二人で、また、クラスを二分して、教師と子どもたちとで楽しみたい。『せみ』の詩では、蝉の鳴き声をアブラゼミの「ジージー」という鳴き声を「じぶん」「じかーん」「じゅう」という3つの鳴き声に変化させている。使われている言葉は単純だけれども、子どもたちは、音読する楽しさを味わえる。5～6人グループで音読の工夫を考えさせ各グループの発表を聞き合う時間を設定したい。『たね』の詩では、1行1行の終わりに「たね」という言葉が使われている。また、3文字4文字5文

字と行が進むごとに文字数が増え、その繰り返しが4回ある。その上、3行ずつで話が完結しているという素晴らしい作品である。これらの工夫を発見するごとに、子どもたちはこの作品のよさに気付くと考える。

(5) 児童の実態

7月に自分の名前を接頭語にして文を作った。その際、自分の名前が接頭語になっていればよいのではなく、自分の紹介になるような文を書くことを目標とさせた。しかし、自分を形容する語彙が十分でなく、「〇〇が好き」「〇〇をする」等の文で書き表す子が多かった。子どもたちは、名前の1文字1文字を接頭語にして、文を工夫することに難しさを感じていた。

今単元は、前時で学習する詩の学習により、様子や動きを中心に表すにも、擬人法を用いることもできることを思い起こさせ、意欲的に取り組めるのではないかと考える。

4 本時の授業

(1) 本時のねらい

「かくし言葉」の技法や工夫を知り、「わたしはだれでしょう」クイズを作る。

(2) 本時の構想

「かぶとむし」などの名詞を接頭語にして小さな話や詩を作り、「わたしはだれでしょう」クイズとして発表することによって、言葉に関心をもって楽しむことができると考える。作る際には、言葉のイメージをふくらませることの大切さに注目させたい。

(3) 本時の展開 (1/3時間)

時間	・学習活動 T教師の働きかけ C予想される子どもの反応	○支援 ◎評価
3	<p>・本時の活動のめあてを確認する。</p> <p>T 「わたしはだれでしょう」クイズを作ろう。</p>	
7	<p>・「わたしはだれでしょう」のクイズを解く。</p> <p>T 「わたしはだれでしょう」クイズを出します。1文ずつ写し書きしながら、答えも用紙に書きましょう。かっこいいの ぶっといからだ とてもちからもち むくむくうごく しぶといやつ</p> <p>C 1 とても力持ちなら、相撲取りかな。 C 2 むくむく動くのは、何かの幼虫かな。</p>	<p>○5文字の名前だと告げ、3番目のとから、ばらばらにヒントの文を読むことにより、イメージが広がる言葉に着目させる。</p> <p>○1文ずつ用紙に視写させ、答えのイメージをふくらませる。</p> <p>○接頭語は答えを表す文字なので、1番上に揃えて書くよう指示する。</p>
5	<p>T カブトムシの様子がよくわかる言葉を発表しましょう。</p> <p>C 3 「ぶっとい」が、すごく太い感じが出ている。 C 4 「かっこいいの」が強そうな感じが出ている。 C 5 「しぶとい」が、なかなか負けない感じがしている。</p>	<p>○カブトムシの特徴がよく表れている言葉に着目させ、物の名前をイメージできる文のよさに気付かせる。</p>
10	<p>T 「わたしはだれでしょう」クイズを作りましょう。</p> <p>C 6 何にしようかな。</p>	<p>○「かくし言葉」の技法を確</p>

<p>15</p> <p>5</p>	<p>C7 いい文ができた。</p> <p>C8 早くクイズを出したいな。</p> <p>T 「わたしはだれでしょう」クイズを発表しましょう。</p> <p>C9 1つ目の文で、答えがわかるかな。</p> <p>C10 何の事だろう。</p> <p>C11 答えがわかった。</p> <p>C12 ヒントが上手に作ってあるなあ。</p> <p>C13 ○○さんのクイズは、～のところが工夫してあった。</p> <p>T 自分や友達のクイズのヒントで分かりやすかったところや、もっと工夫するとよかったところを書きましょう。</p> <p>C14 (1つめの接頭語の) ヒントの○○がよかった。</p>	<p>認する。</p> <p>◎クイズを作ることができたか。(観察・用紙)</p> <p>○3人グループになり、順にクイズを出す。</p> <p>○接頭語やヒントの文をメモすると早く答えがわかることを確認する。</p> <p>○工夫して作っているクイズをクラス全体に紹介する。</p> <p>○答えだけでなく、工夫してあると感じたことも発表させる。</p> <p>◎イメージが広がる言葉に着目して書いているか。(用紙)</p>
--------------------	---	---